

今冬、懸念されているのが新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行だ。発熱や倦怠感などの風邪症状を引き起こす感染症が増えてくると、症状からは区別がつきにくく、医療現場

# 医療最前線 「コナ」の闘い

県立中央病院から

〈209〉

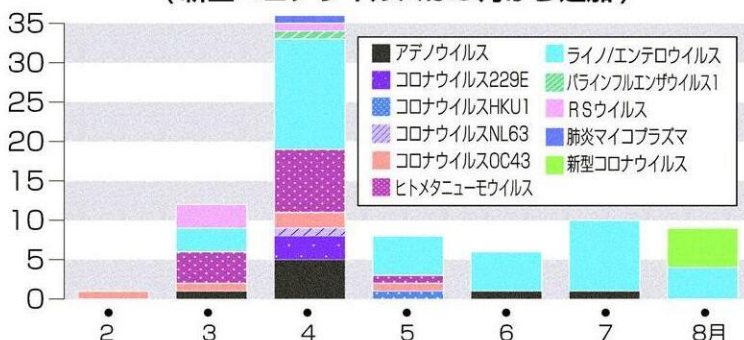
の混乱にもつながりかねない。山梨県立中央病院は21種類のウイルス・細菌を同時に短時間で検出できる全自動PCR機器を用いて、冬場に向けた万全の診断体制を整えた。



長久保由貴  
臨床検査技師

## 全自動PCR機器で迅速判別 インフル同時流行に対応

フィルムアレイで検出されたウイルス・細菌  
(新型コロナウイルスは8月から追加)



全自動PCR機器の名称は「Film Array (フィルムアレイ)」。新型コロナウイルスだけでなく、通常は「風邪」と診断される4種類のコロナウイルス、マイコプラズマといった呼吸器感

染症の原因となる病原体、さらに冬場の流行が予想されるインフルエンザを同時に検出できる。通常のPCR検査と同等の高い診断精度がある。

同院は血液中の病原体を調べる目的で、2018年4月に全国に先駆けて導入。今年2月の保険適用をきっかけに呼吸器感染症のウイルス・細菌20種類を調べる検査も開始し、8月に新型コロナウイルスが加わった。

通常は一つの検査で一つの病原体を調べるため、診断には複数回の検査が必要となる。例えば、発熱などの症状がある患者に対して複数のウイルス・細菌を確認するには、それぞれ別の検査キットを用いるため、検査の数だけ鼻の奥から検体採取することになる。フィルムアレイを用いれば1回で済み、患者の負担軽減にもつながる。

検査部の長久保由貴臨床検査技師は「新型コロナウイルスも含めて呼吸器感染症の原因を素早く特定でき、来るべき冬に備えることができる」と強調する。

フィルムアレイは人の手による作業が多い通常のPCR検査とは異なる全自動型。検査キットに検体を入れ、機器にセットするだけで簡単に結果が分かるのもメリットの一つだ。同院は主に夜間、休日運用し、PCR検査に慣れない臨床検査技師でも検査を止めることはない。検査にかかる時間も45分と極めて短いため、緊急手術が必要な患者に活用することで院内感染対策を講じている。

県立中央病院がフィルムアレイを用いて行った500検体の解析結果によると、2〜5月に確認されたウイルス・細菌は10種類。一方、6〜8月は新型コロナウイルスを除き2種類にとどまる。「風邪を引き起こす病原体が冬場は多様化することが明らかになった」(長久保臨床検査技師)。

今シーズンもインフルエンザの流行期が近づく。同院はフィルムアレイの運用体制を拡充することを検討している。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します